

平成23年度能美市地域福祉活動計画  
第2回アクションプラン推進協議会及び第2回評価委員会

日時：平成23年9月2日（金）午後7時30分～

場所：辰口健康福祉センター

出席者：高塚亮三（福祉施設等）、西川方敏（市ボランティア連絡協議会）、井上徹（市民生委員児童委員協議会）、吉田良（市自治公民館協議会）、喜多泉（能美子育てネットワーク）、清水奈津美（能美子育てネットワーク）武田裕幸（福祉施設等）、

欠席者：宮田明（市自治公民館協議会）、田中邦一（学識経験者）、村上洋子（学識経験者）

事務局：宮本会長、斉藤事務局長、新川、海道、向、西出、谷

1. 開会の挨拶

高塚アクションプラン（以下「AP」という）推進協議会長

今年度は、市において、総合計画の見直し、福祉分野では、地域福祉計画、障害者計画や介護保険事業計画が見直しされる。こちらの活動計画に関わる委員の側からも何らかの形で意見を挙げていきたいと思っている。そのことから、このAP推進協議会での協議やまとめも大事になってくるので、皆さんにはまた、いろいろと意見を頂きたい。

2. 報告及び協議

- ・能美市地域福祉計画住民アンケート結果について（資料提供：市福祉課）

・・・別紙1-1

事務局：第2次能美市地域福祉計画の策定に向けて、市が市民の方々の声や意見を反映するとのことで、アンケート調査を実施した。そのアンケート結果を6月にまとめている。分析は未だであるが、今回は市からの許可を得て皆さんに提示した。アンケートの回収率は41.7%であり、計画に反映させていく際に有効とされる40%を超えているので、成立する数字と言えるとのこと。委員の皆さんが普段の活動から、協議している事項など、市民の生活に関わる様々な意見がまとめられているので、今後の参考にして頂きたいと思う。

- ・第2次能美市地域福祉計画策定スケジュールについて・・・別紙1-2

事務局が別紙1-2に基に進捗状況を説明

- ・各アクションプラン委員会からの報告について・・・別紙2

**地域福祉支えあいのしくみづくり委員会**

喜多：前回の委員会は8月4日に開き、人づくり委員会の正副委員長2人が出席され貴重な意見を頂けた。まず、ファミリー・サポート・センター（以下「ファミ

サポ」という)は全体的に順調に稼働していると言える。市内では、除々に浸透してきており、いろいろな利用の仕方を選択して、依頼がきている。ただ、土・日曜日の子どもの預かりに関しては、協力会員の方々にとっては難しいようである。私たちのAP委員会などでも、土日に気軽に集える場があれば、協力会員が子どもと一緒に足を運ぶことができ、預かりやすくなるのではないかと話し合っている。現在、依頼会員が210人程、協力会員が75人程、両方会員65人程で、流動的ではあるが、全体で350人程が会員登録している。これらの会員がいろいろなつながりを持ちつつ動いている。「いつでも、誰でも、動ける」状態が理想ではあるが、未だそこまでではなく、難しい課題がある。ファミサポ会員への研修に関しては、例年通り、年に数回の実施として、前回は「きつともつ」という障害児の親の会を招いて、障害児への接し方であったり、親の思いを座談会形式で意見交換し、今後の活動に少し光が見えたような気がした。無理な活動はできないけど、少しずつ良い方向に進んでいくことが大切だと思う。また、若い世代を対象に働き掛けていきたいということで、今度11月に寺井高校の野球部員に「子育て」や「父親になるということ」について話す機会を持つ予定になっている。最後に先程も言ったが、能美市内で、土日のフリーサロンは必要だと思う。フルタイムで共稼ぎのお父さん、お母さんにとっては、土日が休みの方が多いので、お金を使わず、家族で行ける場所、集える場所があれば、お父さん同士がつながることにもなると思う。フリーサロンづくりは、今後も話し合っ、早急に何かしら動いていきたい。

#### 私たちのボランティアセンターづくり(以下「ボラセン」という)委員会

西川：8月17日に、第3回の委員会を開いた。第2回の委員会でボランティアグループに対し、アンケートをお願いして、活動実態を掴もうということになった。それを受けて、アンケートの内容をどうするか、締切をいつにするか、などを話し合った。また、辰口健康福祉センターの館内を見てまわり、どこを、どんなふうに活用しようか、いろいろな意見を出し合い、より実践的な活動となるよう、協議を進めている。

#### 地域福祉人づくり委員会

高塚：第2回の委員会で、正副委員長が他の3つのAP委員会に出席して、どのような話し合いを持たれているのか把握し、8月3日の第3回の委員会で報告することにした。一つの区切りとして、最終的には、福祉は福祉教育が大事であり、どういうふうに福祉教育をするべきか、という協議になる。これまでは学校教育の中での福祉教育ということで、引っ張られて来た観があるが、家庭内での教育は、身近な家族が日々接する中で、人としての成長が基本となり、そこから地域との関わり合いの中で、更に成長し、福祉という枠を超えていくものである。「普段の暮らしの幸せ」を考えるということは、日々あってしかるべきで、それが家庭内でなされているのか、地域の中でなされているのか、また、ボランティアをする側がどれくらい意識して取り組んでいるのか、という視点

がポイントになる。福祉教育というけれども、福祉の話をした時に、きちんと受け止められるような心構えができていることが大事である。福祉教育は家庭や地域で、人と人が関わる中でのものであり、その基本を一つ一つ掘り下げていく必要がある。

#### 地域福祉ネットワークづくり委員会

井上：7月21日に第2回の委員会を開いた。まず社協主催の地域福祉委員会ヒント探し講座への受講申込状況の報告を受けた。次にいきいきサロンボランティア研修会が8月31日に社協主催で開催されるということで、NWづくり委員会として、参加協力することにした。いきいきサロンの担い手のいろいろな活動や思いを聞きたかったが、時間的に足りず、あまり聞けなかったのが少し残念であった。そして、地域福祉委員会活動充実への支援として、地域にわかりやすく周知するための「Q&A集」の作成について協議し、特に町会行事、公民館活動と福祉の連携、関係性を内容に盛り込むなど、また、今年度中に未設置町会の実情把握を進めていくことなども協議した。

高塚：それでは、各AP委員会からの報告をふまえて、何か意見・質問などあるか。

事務局：ファミサポについて、土日に子どもを預けたいという依頼があるけど、それに対する協力会員が少ないということであるが、もう少し実情を聞きたい。

喜多：協力できる時に協力するというのが、ベストであるが、協力できる人がなかなかいないのが土日である。今は土日でも仕事に行かなければならない人が多くなってきて、例えば、午前9時から午後4時まで、子どもを預かって欲しいという依頼に、一人暮らしの女性が協力する場合、朝から夕方まで2人きりで過ごすのは、容易ではない。そんな時に親子や家族で気軽に集えるサロンがあれば、そこに出向けば、2人きりの時間だけでなく、子どもも協力会員も負担なく過ごせると思う。

西川：そのようなサロンがあることで、依頼会員と協力会員のマッチングが上手くいかないという課題が解消されるとともに、サロン設置によって、「私でも協力できるかもしれない」と協力会員が増えるかもしれない。

喜多：子どもを預けやすくなることで、会員同士のつながりも広がってくると思う。それがファミサポの本当の目的だと思う。

西川：地域福祉計画の住民アンケートのことだが、私たちが活動計画を進めている中で、福祉意識の醸成が進んできたように感じていたが、回収率が、41.7%という数字は低いように思える。前回の回収率はどれくらいだったのか。

事務局：前は 41.4%で、ほぼ同じである。

喜多：多分、「福祉」という言葉というか、活字にすると、抵抗感を持つ人は少ないと思う。まだ、「助け合い」とか「協力」の方が受け入れやすいし、ひらかなで「ふくし」とすることでも、少し受け取り方が変わってくる。

西川：やはり言葉にすると、ここからが福祉というような境目をつくってしまい、日常生活の中での声掛けなど、普通にあるものというふうには受け取らないのか。先程、NWづくり委員会の報告にも、町会では福祉と防災を分けて考えるようなことを言われたが、災害時は同じ地域に住む者同士、運命共同体であり、地域への帰属意識にもつながり、福祉もその延長線にあるという気がするが。

井上：ただ、防災活動をすることで、福祉活動もしたという感覚になるのも懸念される。

高塚：町会で防災活動をきちんとすることは大事であるが、その根底に持つ「福祉の心」というか、意識の醸成をすることも大事である。

井上：地域福祉委員会活動には、防災活動も含まれているのに、どうしても別々に捉えてしまいがちであるし、東日本大震災もあり、町会としては、防災活動という動きの方がしぼりやすいということもある。

吉田：地元の西任田町のことだが、10月23日に防災訓練をして、その後に大鍋を振舞って、そして、その後に運動会をすることになっている。防災訓練は町内会が、大鍋は生産組合が、運動会は公民館がそれぞれ主体となるが、それぞれに連携・協力して行おうとしている。自分としては、これらの活動をまとめて地域福祉委員会の活動として進めて、みんなに理解してもらいたいと思っている。今度、運動会の内容について、打ち合わせがあるが、公民館委員だけでなく、福祉推進員やいきいきサロンボランティアの方にも入ってもらい、福祉の要素も取り入れていきたい。

・地域福祉活動計画4年目における市民への報告の機会について・・・別紙3

事務局：平成23年度地域福祉活動計画(4年目)推進経過一覧と昨年度の報告会資料をふまえ、4年目の取り組みの報告会をどうすべきか、各AP委員会で協議し、意見をまとめて頂きたい。

西川：報告会の参加者について、若い世代の方にも来てもらいたいので、支えあいのしくみづくり委員会では、寺井高校への働き掛けをされるので、ぜひ来てもらいたいと思う。

喜多：勿論、声掛けするつもりでいる。ここ2年は、辰口健康福祉センターでサロンを開催して、どちらかという大きな会場に集まってもらおうという形であった。まだ委員会で話し合ったわけではないが、地域の公民館に出向く、出前サロンとして、小さな会場でも新たな方にも来てもらい、裾野を広げる形にしたいと思っている。

高塚：地域の中の一人一人にどれだけ身近に感じてもらえるかということだと思う。

西川：高塚さんの話の中で、家庭内教育ということを挙げられた。大家族の場合は、家庭内に三世代あって、各世代に関わる生活上の多様な学びができる。先程、私が若い世代にも参加してもらいたいと言ったのは、保育園児から小学生までは、地域の行事などに参加する機会が多いが、中学生になると地域との関わりが薄れ始め、高校生になると、更に薄れてくる。そういうことから、若い世代をはじめ、各世代に広く地域福祉に関わってもらいたい。

高塚：私が家庭内の教育と言ったのは、親が子どもに教育するというのではなくに福祉教育というのは、学校教育の中で行われるのが主であり、子どもが学校で教わったことを家庭に持ち帰ることも期待しているが、それは実際にどれだけの効果があるのか。やはり、子どもが教わったことを、親に伝えた時に、親がきちんと受け止める心のゆとりを持つことが大事ではないかと思う。家庭内でいかに、福祉についてのキャッチボールができるか、という環境をどうすれば生まれるかを考えていかなければならない。福祉教育は子どもに対するだけでなく、それを親が受け止めるところまで含むことだと思う。

喜多：例えば、障害を持つ子どもの親と健常な子どもの親がふれあえる場があれば、お互いの思いを理解し合える機会となる。このような機会を持つには、子ども小さいうちでないと難しいので、障害の有無に関わらず、親子で気軽に行けるサロンが、市内に必要だし、そういう場で若い親が学び、成長していくのだと思う。それと、先程の話にも繋がることで、現在、市内3会場それぞれ週1回の親子サロンが開催されているが、市内に1ヶ所でも、いつでもサロンが開かれている場所があるのが理想である。それは、自ら進んで参加できる方ばかりではなく、参加したい気持ちはあるが、人との交流になかなか入り込めないという方や、体調面に不安のある方もいる。そんな方にとっては、いつでも開いているサロンがあれば、心身の調子が良い時なら足が運んでみようという気持ちが湧いて、参加しやすくなると思う。

井上：助けられた方の声を挙げる「助かったわ〜大賞」というのは、今年度も継続するのか。

事務局：今年度も続けたいと考えている。

3. 今後の各AP委員会等の日程について

\*地域福祉人づくり委員会

・・・9月13日（火）10時～ 寺井地区公民館

\*地域福祉ネットワークづくり委員会

・・・9月15日（木）19時30分～ ふれあいプラザ

\*私たちのボランティアセンターづくり委員会

・・・9月21日（水）19時30分～ 辰口健康福祉センター

\*地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

・・・10月20日（木）13時30分～ 辰口健康福祉センター

\*第7回能美市社会福祉大会及び第4回能美市民ボランティアフェスティバル

・・・9月19日（月・祝）10時～ 根上総合文化会館

高塚：人づくり委員会としては、できれば、他の3つの委員会と合同で委員会を持っていないかと思っている。

井上：各委員会の協議の進み具合も考えないといけないし、委員の意見も聞かなければならないと思う。

高塚：合同で何かを行うことは協議するというわけではなく、各AP委員会としての協議を進めてもらう中で、「福祉の人づくり」に関わる部分で何か連携できることはないか、を合同の委員会で共有したいということである。

4. その他

次回 開催日

日時：平成23年11月9日（水）19時30分～

会場：辰口健康福祉センター

5. 閉会の挨拶

西川 AP 推進協議会副会長

本日も、貴重な意見が多かったと思う。また各AP委員会に持ち帰り、各AP委員会でも協議し、それをまた、AP推進協議会に挙げてもらい、協議を深めていけば発展的に進めていけると思う。次回もよろしくお願ひしたい。